

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 23 日	評価結果確定日	令和 5 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①ご利用者の生活歴や趣味嗜好を考慮し、ご本人の思想やペースを尊重し、その方らしい暮らし方や個別支援の充実を心掛けています。また、「願え・叶い」の取り組みで利用者の眩きに耳を傾け、コロナ禍の中でも可能な限り希望の企画を立て実施を行っている。②法人で年間研修計画を立て、多職種による指導や研修体制を整え、職員の質の向上に努めています。③施設内の庭園は、四季折々の植物や木々があり散歩や季節感を楽しめます。④昨年からのコロナ感染予防のため困難となっていますが、感染が終息しましたら、地域カフェや地域行事・ラン伴にご利用者も参加して頂き、社会との繋がりを図り、地域貢献活動にも力を入れていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 17 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

敷地内に当法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービスセンターが隣接されており、事業所建物には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。事業所の近くに公園があり、利用者の散歩コースとなっている。屋上の菜園では野菜等を栽培し、利用者が水やり等を日課としている。利用者の何気ない一言も大切に、願いを叶えられるよう支援しており、利用者の願いを叶えることは職員の喜びともなっている。コロナ禍のため、地域活動は自粛傾向にあるが、感染対策を講じながら何かできることはないか日頃から考えてレクリエーションや行事に取り組んでいる。研修は年間計画を立てており、職員は配信される講義等を視聴し、自己研鑽に努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人には「誠実・信頼・継続」と理念があり、施設には「すべての方の人格を尊重し、共に歩み、共に喜び、お一人お一人が主体性をもって地域での生活を継続できるように、自立のお手伝いをさせていただきます」を方針として、会議などでも理解を深め意識向上と実践に努めている。	事業所理念は、会議等で共有し、実践に向けて話し合っている。管理者は、日頃から職員が理念に基づく支援が実践できているか確認し、必要があれば指示や修正を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為、例年参加していた、地域清掃や地域行事には参加出来ていない。毎月第3日曜日に行っていた、地域カフェも中止になっており、再開を望む声もあるが、再開の予定はまだ立っていない。	自治会に加入し、事業所便りを地域の役員などに配布し広報している。散歩中に地域住民から声をかけられるなどは日常的にある。コロナ禍前は傾聴ボランティアの受け入れ、事業所の菜園での地域の保育園児との芋ほりなど交流ができていた。また、隣接した特別養護老人ホームのスペースで開催していた地域カフェについては、感染状況を見極めながら再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は地域の要望により、認知症サポーター養成講座やふれあいサロンへの講師派遣や月一回の地域カフェを開催し、地域の皆さんの交流の場を提供し介護相談なども行っていたが、現在は実施出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、現在、運営推進会議は書面会議を行っている。校区公民館長、地域包括、民生委員、校区社協会長、区長、利用者へすみれの花だよりや事業所状況報告書を配布し、ご意見を頂き、サービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は書面で2か月毎に開催し、研修報告、利用者状況、事故ヒヤリハット報告、活動内容、人事報告、職員照会など幅広い内容を議題としている。同時にアンケートで意見を求め、面会方法、感染症対策など出された意見をサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営で分からないことや相談事があれば、行政や地域包括に電話やメールで助言をいただいている。また、おむつ料金のご家族負担が増大や保険限度額適用申請等、行政サービスをご案内して負担軽減に努めている。	行政とは日頃から連携をとっており、入居相談のほか、認知症サポーター養成講座の講師派遣などについて協力していた。重度化した利用者に対して、オムツサービス申請方法を利用者に伝えるなど行政と利用者の橋渡しをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束委員会を設置し、委員を中心に取り組んでいる。ご利用者の対応やケアの工夫を話し合い、身体拘束をしない取り組みを行っている。内部研修（ウェブ研修）で学び、身体拘束をしないケアについて職員間に周知している。昨年度に続き今年度もコロナ感染予防のため外部研修に参加できていない。	身体拘束をしないケアに取り組み、マニュアルや委員会活動のほか、研修会など職員に対する教育方法も確立している。ナースコールが使用できない利用者に対してトラブルリスクが軽減できるようにリハビリを強化したり、環境面では居室にはサイドコール、センサーマットを設置して対応している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内部研修（ウェブ研修）にて、職員の虐待防止に対する意識を高めている。また、虐待が見逃される事がないよう変化や気づきの共有を行っている。昨年度に続き今年度もコロナ感染予防のため外部研修に参加できていないが、スピーチロックの取り組みで職員同士注意し合えるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設玄関に資料を設置し、ご家族からの相談に応じれるようにしている。本年度も昨年度に続きコロナ感染予防のため外部研修に参加できていない職員間で資料を閲覧した。ご家族より相談を受け、成年後見制度を活用している利用者がある。	権利擁護に関するパンフレットを常備しており、家族からの問い合わせに対して誰でもすぐに対応できるよう努めている。制度に関して、全職員が研修会にて理解を深めている。過去には家族より相談があり、制度の利用につなげた実績がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族へ資料を配布し、ご家族からの相談に応じれるようにしている。また、説明ができるパンフレットを玄関に用意している。例年、外部研修で学ぶ機会を設けているが、昨年度に続き今年度もコロナ感染予防のため外部研修に参加できていない。現在、ご家族からの相談があり、対応中である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やLINEを利用してご家族とのコミュニケーションを大切にし、ご利用者やご家族からのご意見ご要望をお聞きして、できる限り対応している。また、ご意見箱を玄関に設置している。苦情要望に関しては第三者委員に報告している。	利用者の何気ない一言を大切に、ドライブなどの活動や美味しいお茶の葉の提供など、出された要望等を運営に反映させている。家族から利用者に浴衣を着てほしいとの要望が出され、夏祭りに実践したり、面会回数の要望等についても検討し応えられるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月担当を決めて、行事計画・実施・報告を行っている。毎月1回グループホーム会議を実施し、行事、業務、ご利用者の事などそれぞれの職員の意見を交わし反映している。	管理者は職員に対し、月1回の会議前に運営に対する意見を書面にて求め、職員の思いを聴けるよう努めている。利用者の食事形態の変更、行事企画など職員の意見を積極的に採用して実践している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人キャリアパスにより、自己評価・他者評価があり、職員個々の努力や実績によりレベルアップが可能で給料に反映する仕組みがある。目標管理シートで各自目標に向かって働く環境づくりを行っている。また、面談を実施し、職員が上司に話しやすい環境を作り、個々のモチベーションを上げられるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	ご本人の資質や介護に対する情熱を重視した採用になっており、事業所には経験・年齢・様々な職員が従事している。得意分野で個人の能力を発揮してもらい、勤務形態は個人の状況や必要に応じて検討し、働きやすい職場作りを心がけている。	職員が資格取得へ挑戦しやすい職場環境づくりに努め、ネット配信による職員研修を実施する等職員がキャリアアップを目指す体制を整えている。継続雇用した高齢者や外国人労働者などを含め、すべての職員が安心して自己実現につなげられるよう配慮されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時新人研修や年間計画の中で年2回の研修を計画している。外部研修の参加も行っていたが、現在はコロナ感染対策の為、実施は見送っている。また、グループホーム会議にて人権を尊重した対応の統一を図っている。ネット配信の研修を視聴し、報告書の提出もしてもらっている。	高齢者や認知症に関する人権教育は、ネット配信研修で実施している。外国人労働者が働きやすい職場環境作りやコロナに関する差別が無いよう、日頃から管理者を中心に職員と意見交換し実践につなげている。今後も、さまざまなテーマを定めて人権教育等に取り組む予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は職員育成マニュアルに沿って育成する仕組みがある。また、法人キャリアパスにより、レベル別に自己評価と自己目標管理シートにより目標を設定して、年間を通じて自己研鑽と他者評価によりレベルアップと給料へ反映する仕組みがある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さらさらにネットやグループホーム情報交換会「糸の会」の会員になり、ネットワーク作りやラン伴参加・研修会参加などにより情報交換や施設の質の向上に努めていたが、コロナ禍により参加を中止している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけてご本人との関係性を築くように心がけている。担当者を置き、ご本人の様子の観察や課題を見極め、不安軽減や対応の工夫を職員で共有して環境を整え、ご本人が居心地よく安心して過ごして頂けるよう心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけてご家族との関係性を築くように心がけている。また、ご家族の困っている事、不安な事、要望を確認して施設側として出来ることを一緒に考えている。一昨年よりコロナ感染予防の為、面会にも制限があり、施設でのご様子をLINEやお便り、お電話等でお知らせしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や申し込みをされる際、現状の把握を行い、必要に応じて、併設事業所の職員と相談し、その方にとって安心できる必要なサービスの提案を行っている。コロナ禍の中、施設見学が出来ない時には、施設内の写真を用意し見て頂くようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちをもって日々接している。また、その方の能力を発揮して役割をもって頂き、一緒に生活する仲間としての関わりを大切にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係性の継続を第1に考え、細かい事でもご家族と相談しながらご本人を支えている。また、面会時に近況報告やご本人の思いや願いを伝え、その方らしい暮らしや思いの実現にご家族にも協力していただいている。ケアプランにもご家族の思いを反映している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやり取りや電話の取次ぎや知人の面会は、ご家族にも報告し、かかりつけの病院にもご家族からご協力いただき同行していただいている。一昨年より面会の制限があるためご家族の面会しかできていないが、電話対応などは継続して行っている。	職員は利用者の生活歴や嗜好など把握し、年賀状のやり取り、散歩ルートを思い出に配慮して決める等の支援を行っている。外部からの電話の取次ぎや携帯電話の所持も認めており、気軽に連絡し合えるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を観察し、リビング席の配置を考慮している。ご利用者同士、時には慰め合い、励まし合い、助け合い、支え合って生活しておられ、職員は見守り、必要に応じて仲介し、トラブル防止に努めている。孤立しやすい方へは職員が入り橋渡しをして関係性作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所となり契約終了となった方も、情報提供し生活の継続の助言や相談支援に努めている。お見舞いや様子を伺いに訪問していたが、一昨年からコロナ感染予防のため実施されていない。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴・趣味・思考・生活を踏まえ、ご利用者の言葉やその時の気持ちを何よりも大切にしている。職員は自分の経験や価値観ではなく利用者が何を感じ何を考えられているのかを考え共感的に受け入れるよう努めている。また、利用者の弦きを聞き逃さず、「願い・叶え」として実施に努めている。	職員が利用者から聴き取りした利用者の思いや願いを記録し、職員間で検討し、実現に向けて取り組んでいる。利用者からの聴き取りが困難な際には、家族・関係者から聴き取りをしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に時間をかけて、生活歴・これまでの暮らし方・環境や利用したサービスなどについて幅広く情報を収集し、これまで何を大切にしてきたかや課題は何かなどの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の場と時間を共有し、寄り添うことでご利用者の1日の過ごし方や生活スタイル、リズムの把握に努めている。コロナ感染予防のため活動に制限はあるが、その範囲内でご利用のペースに合わせてできる限り自由を保障して、ご本人の持っている力や思いの把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	収集したご利用者情報を職員間で共有し、グループホーム会議などで多職種と意見を出し合い、課題の明確化を行っている。ケアマネ・担当者・看護師・管理者・ご家族の意見や要望を踏まえ担当者会議で立案しているが、一昨年からコロナ感染予防のため家族へは電話やラインにてモニタリングを実地している。評価見直しはご利用者の現状に合わせて3ヵ月～6ヵ月毎に実施している。	利用者の日頃の様子や過ごし方を把握し、職員から寄せられた情報や受診時の医療情報、利用者や家族から聴き取りした意向等を取りまとめて担当者会議に諮り、利用者のどう暮らしたいかが反映されるよう心がけて介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施記録を記入し、ご利用者の日々の様子、変化・経過記録を入力し、介護計画にも反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防のため制限はあるが、その範囲内でご本人やご家族の様々なニーズに対して可能な限り柔軟な対応を心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や地域のお店への買い出し、毎月開催の地域カフェにご利用者も参加していただき、地域交流や社会参加を行い、ラン伴のお茶出しなど地域貢献活動へ参加していただき社会とのつながり継続支援を行っていたが、一昨年からコロナ感染予防のため実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族、ご本人の希望を尊重して、入居前からの継続を希望される方は継続していただいている。また、母体が協力病院であることから、入居後に事業所の協力病院に変更される場合もある。受診が家族対応の場合は、定期的に生活状況やバイタル状況を主治医に書面で報告している。	利用者・家族が選択した医療機関をかかりつけ医として受診を支援している。家族が受診に付き添う場合には、利用者の状況説明などを書面で渡す等、家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化や生活の中での変化、気になることはその都度併設看護に報告して、専門的立場での対応を委ねている。必要に応じて看護からご家族に相談をして、受診対応の検討を行い、緊急時には受診対応を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合はお見舞いに出向き、看護師や主治医などと情報交換を行い、環境の変化によるご利用者の混乱時は馴染みの職員が出向き、安心して治療ができるよう対応を行っていたが、一昨年よりコロナ感染予防のため、看護師や地域連携室への電話でのやり取りで連携を図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に重度化した場合や終末期の在り方についてご本人やご家族の希望を伺っている。経過と共に考えが変わる場合があるため、その都度相談して頂くように伝え、緊急対応や重度化について同意書をいただいている。法人内に病院や特養施設があり、安心の一つになっている。	契約時に、「緊急時の対応についての確認事項」に基づき、終末期等において事業所が出来ることについて説明し、利用者や家族と支援方針等について話し合いをしている。また、利用者の状態や家族意向の変化に伴い、必要に応じて話し合いの機会を持ち、事業所の対応について確認している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で、年間を通じて計画的に、緊急時対応や緊急蘇生法、事故発生時の手順、夜勤開始時などの内部研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施。運営推進会議の中に、避難訓練を計画し、地域の参加のもと訓練を行っており、地域協力体制が少しずつ築けている。一昨年からからはコロナ感染予防のため、地域の方は不参加で行っている。	ハザードマップ上、大規模な水害が想定される区域ではないため、火災想定避難訓練に重点が置かれている。コロナ禍のため、避難訓練を実施する際に地域住民に呼びかけていない。非常用食料・備品は事業所内に準備している。	非常時には地域住民の協力が不可欠なため、避難訓練を実施する際は地域住民への呼びかけを行ってほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生きてこられた歴史や一人一人の人格を尊重し、個々に合わせた声かけやプライバシーを尊重した対応を心がけている。	各居室にトイレが備え付けてあるため、他者の目を気にせずに排泄できる。職員はネット配信によるスピーチロックの研修等、日頃の利用者への言葉遣いや利用者への接し方について研鑽している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方的な働きかけではなく、「ご本人がどうしたいのか？」発語が難しい方へは思いを探り、日頃の喧きに耳を傾け、思いや希望を伺いながら自己決定出来るように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどう過ごしたいのかを優先し支援を心掛けている。また、一人一人のペースを大切にし、生活の中で出来る事への意欲を尊重し、見守りながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧用具が不足した時はご家族へ連絡し、お持ちいただいている。起床時・入浴後・外出の際の洋服の選択やアクセサリ等、その方の状態に合わせて声掛けや支援を実施している。コロナ禍にて訪問美容のみでカットを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は、法人の管理栄養士が栄養バランスや季節を考慮して献立を作成し、厨房職員と共に調理を行っている。昨年よりコロナ感染予防のため、汁物・おやつ調理は中止。おやつ作りは行事の一環で行い、感染予防に努めながら慎重に実施している。汁物・おやつはコロナ感染状況により再開を考えている。	現在、主食は事業所で調理し、副食や汁物は併設事業所で調理されている。事業所分の食事が入った容器の受け取りと返却は職員と利用者が一緒に行い、食器拭きを行う利用者もいる等、それぞれの利用者が食事に携わっている実感を持つことが出来るよう支援している。利用者から食べたい物の要望が出た際には、実現できるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の管理をしている。少ない方にはご家族からの差し入れや好みの物を個別に提供している。食べやすい形態・飲みやすい方法等を考慮し、その方のペースに合わせて提供している。水分1日1000cc以上を目標にこまめな提供を実施。月1回体重測定にて体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて毎食後声掛けや口腔ケア介助を行っている。その方の口腔状態に合ったケア用品を使用し、義歯は毎日夕食後に洗浄剤に浸けて清潔を保っている。必要に応じて提携歯科往診も行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時はタブレットに入力し、お一人お一人の排泄リズムの把握に努め、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけている。介助が必要な方には食事前後やご本人のサインを観察しトイレ誘導を行っている。また、その方の今の状態に適した下着、尿取りパッドなどの検討を随時行い、自立に向けた支援を心がけている。	職員は利用者の排泄サインを把握し、さりげなく支援している。オムツやパットを使用する時は、利用者一人ひとりについて常に見直している。トイレの夜間の照明は、利用者の状況に合わせて個別に対応し、スイッチの扱いが適切に行えない利用者にはセンサーを使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認票により、排便状況を職員間で共有し把握。必要な場合は看護へ報告して指示を仰いでいる。牛乳やヨーグルトなどを提供したり、散歩や運動を促し、自然排便できるように支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の意向、体調を確認した上で入浴の支援を行っている。湯舟に浸かることが好きな方は湯舟をまたいでいただけるよう体操の時間に下肢筋力維持のための運動を行っている。入浴に抵抗がある方へは職員間で成功事例を共有して声掛けを工夫し、抵抗が少なく安全に入浴して頂けるよう努めている。	利用者ごとにお湯を張り替え、無理に入浴に誘わず、利用者に合わせて案内している。週2～3回入浴を提供しているが、お風呂は毎日沸かしており、希望があれば、いつでも入浴できる。現在は感染防止のため休止しているが、併設事業所の温泉浴や機械浴も利用できる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣、体調、体力を考慮し、適度な休息、運動など就寝の支援を行っている。不眠傾向のある方には日中の活動の満足度を高めたり、散歩や日光浴を実施。飲み物提供時はカフェインの摂取時間や量にも配慮。就寝に向けた環境作り（照明やヒーリング音楽）を行い、夜間の安眠に繋がるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルに入れ、いつでも確認できるようにしている。予測される副作用については職員間で共有し異常の際には看護に報告をしている。薬の変更があれば申し送りを通じて周知している。眠前薬の調整が必要な場合は、24時間シートを使い観察を行い、主治医に報告し調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除・片付け・生け花等生活の中でその方の出来る事、できそうな事を探し役割を持っていただいている。音楽、新聞等その方の生活歴に応じた支援を行い、コロナ感染予防のために制限はあるが、その中で希望に応じての散歩やドライブ等できる事を提供し、施設での生活が楽しいものであるよう心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため制限があるが、その中でできることを実施している。また、ご本人の「〇〇したい」などの声には出来る範囲で施設で実施。外出関係は外出計画を立て車内から下りないドライブを実施。（コロナ状況、外出場所の状況によっては下車して楽しんでいただいている）「〇〇が食べたい」の声にはおやつ作りなどで対応している。	日々、外気に触れる機会を持つことが出来るよう努め、天候に応じて事業所周辺を散歩している。コロナ禍のため、ドライブは基本、車外に出ないようにしているが、行った先で人出がまばらな時は車から降りることもある。コロナ禍前は、家族等と協力しながら、花見等に出かける等していた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。難しい方や不安の強い方にはお財布を持っていただき、紛失しないよう見守っている。お買い物の支払いは状況に応じて見守りながら支援している。一昨年度からコロナ感染予防のためお買い物が中止となり、外出時は職員が希望を聞きながら購入してお渡ししている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれていない方は、希望時に施設電話を使用して頂いている。遠方からの電話や手紙の取次ぎを行い、関係が途絶えないようにしている。また、携帯をお持ちの方で携帯の操作が分からない時は家族、知人とお話出来るようお手伝いし取次ぎを行っている。レクリエーションで作成した絵葉書をご家族宛てに郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やテーブルはご利用者の希望や状況に応じてレイアウトを変え、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。季節の花を、ご利用者に生けて頂き飾っている。対面式キッチンからのお料理の香りで生活感を感じて頂き（昨年7月より汁物、9月からおやつが厨房提供となる。コロナ状況により調理再開予定）、窓から見える高木樹で季節感を感じて頂き季節に合った壁飾りを飾っている。	床はバリアフリーの板張りであり、温かく落ち着いた雰囲気を感じさせる。リビングに接した廊下は広く、仕切られていないため、事業所内はゆったりと感じられる。廊下には所々にソファや椅子が置かれてあり、利用者が思い思いに寛げるように配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター横の椅子、リビングのソファ、テーブル、廊下の椅子などで思い思いに過ごされています。また、玄関前のベンチは散歩後の休憩や木々を眺めてリラクゼーションできる場所となっている。お天気の良い日はおやつを食べたり、他の併設施設入居者との交流の場となっている。（一昨年度より交流は避けている）		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り今まで使っていた慣れた物や好みの物、馴染の物を持参していただき、ご本人の居心地良い空間作りを心がけている。少しでも安心して過ごせ、ご自分の居場所だと思っていただけるように配慮している。	ベッド、トイレ、洗面所、椅子等各居室に備え付けられ、ベッドの向きや配置は利用者の身体状況や動線に応じて工夫されている。室内の照明は3ヶ所あり、利用者は状況に応じて室内の明るさを調整できる。チェストの上には利用者や家族の思い出の品が並んでいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能がわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況に応じた生活動線に家具の配置を行い、お部屋を真っ暗にする方には点灯センサーの設置、尿意はあるがトイレの場所が分からない方にはセンサーマットを使用して、職員が声掛け見守りする事で自立を促すなど、できる限りご自分の力で行動できる環境作りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない